

## <2017 国際宝飾展>

新しいスタイルを着想しては楽しく作品創りをしているシマダではあるが何年もの間、今の仕事のありように息苦しさのようなものを感じていた。もっと自由にのびのびと（これ以上？と言われそう）息がしたいと。これを察したかのように今年の国際宝飾展では従来以外の提案が出る。この兆候は何年も前からあったが、ためらっていた。が、何故か今年はのってみる気になった。ジュエリーとアート、インテリアがひとつになった国内外のイベント参加へのお誘い。初めてのことに不安はつきもの。しかしやってみなければわからない。とりあえず渋谷ヒカリエ・インテリアとライフスタイル展。7月のシンガポール国際宝飾展デザイナーブース出展。お客様から“使っていない時は額に入れて楽しんでいる”とよく聞く。BIZの仕事場の展示も額に入れて他の絵画と一緒に並んでいる。思えばこれもBIZのインテリアバージョンなのかもしれない。今の世界と日本の様相の中でシマダはどう生きたいのか。楽しく読書し旅をしてもそれだけでは大切なものが抜けている気がする。逡巡しつつ進み、どんな報告ができるか。良い報告になることを信じるしかない。



## <冬の庭の楽しみ>

冬の庭は色が無い。枝は細く枯れ、寂し気。そこに時折思わず息をとめ、見入ってしまう美しい鳥が飛来する。やおら立ち上がり額をガラスにつけじっと見る。ふっくらした腹と背は美しいオレンジ色。黒い尾との間に白い脇腹（これはジョウビタキという鳥で雄はこのように美しいらしい）。高低差のある木の柵を楽し気に飛び跳ね、ピアノの鍵盤を遊んでいるようにも見える。地上ではノラ



ジョウビタキ

と思しき猫がヌルヌルと往来。時折部屋の中をじっと見つめる。このキャットレディー(?)達の眼を見てその性質を推測しつつ、あなたには部屋の中見えないでしょ、と煮込みうどんのどんぶりを抱えつつ返事してやる。東南の光に輝く小さな庭の出来事を眺めながらの昼飯は楽しいひと時となる。



クリスマスローズ

## <大根大好き>

大根はどのように食しても美味しい。冬になると千切り大根と浅利の鍋が度々登場。これは池波正太郎の小説から。一番は大根おろし。納豆、麺類にも。麺の煮込みの最後におろしを入れるとつるりとなめらか。夏はナスの揚げ浸しの最後に投入。重さが消える。究極はご飯かけ。炊き立てのご飯におろし大根と堅めのじゃこをトッピング、薄口醤油をちょっぴり。これぞ日本食！おかずもいらない、お替りしたくなる美味しさ。

## <これは何を表現しているのですか>

と尋ねられることが多々ある。何もありません。では余りにそっけなく申し訳ない。何の形なのかと、真面目に聞いているのだから。白状すれば、具体的な何かの形をジュエリーの上に置きたくないのだ。花は可愛らしい、だからこのジュエリーはお花がついて可愛いでしょ、ではないのだ。かわいらしさは別のツールで雰囲気をだす。石の持つ力と表情。どうして欲しいかは石に聞く。普通家庭の中に女性のカオの油絵があったら疲れてしまいそう。花の油絵も鬱陶しそう。意味がすぐは解らないもののほうが楽でいい。ということで、シマダのジュエリーも直接的でない形で何かを表現しているのです。

## <BIZ のネックレス>

連と呼ぶ石のつながりを多少の変化を加えつつ他の線に移していけばネックレスの完成となる。BIZの方法はまずデザイン画を描き、それを基に作っていくが、それで完成、ということは殆どない。仕上がりを見て手直ししたくなる個所が必ず出てくる。美しくするためにはやり直すこと二度、三度。ある業界の男性が“島田さんのネックレスは沢山パクらせて貰ったけど手がかかって儲けにならん”と。驚きもしたが羨ましくもなった。“美しくなければ手にとってももらえない。感動もしてもらえない。第一身に着けた人が美しくならない”と思うから何回でも作り直す。難しく手がかかりすぎ二度と作りたくない、ときえ思うときもある。しかし、仕上がりは美しい。



N-0221

アクアマリンネックレス

不定形、板状の美しい発色のアクアマリンの配置も不定型にデザイン。三連三つ編みの真珠へとつながる。



N-0482

シトリンネックレス

ルチルクォーツと見違える程に美しいキラキラ感のあるシトリンの間には26個のブリオレットのサファイアが点在する。アクアマリンのネックレス同様エレガントな品格を感じる。